

学校運営方針		学校運営計画（4月）			評価（3月）	
学校運営方針		たくましい身体と高い知性・道徳性を育成し、国家及び社会の進展に寄与しうる創造性豊かな資質を養う。 （志をもって意欲的に学び、自立心と思いやりの心を持つ、たくましい子どもの育成）			A	
昨年度の成果と課題		年度重点目標				
校長より示された学校教育目標・教育方針のもと、全職員が一丸となって取り組み、生徒指導・進学結果をはじめ成果を上げることができた。昨年度も引き続き「挨拶・返事・後始末」の指導に取り組み重点事項とした「後始末」にも一定の成果が見られた。		具体的目標				
創立30周年を経過し新たな30年へ向けて、人間教育の基本である基本的な生活習慣の確立に取り組み、教科指導も含め、授業規律の確保・進路指導力の向上・部活動の活性化を図る。		具体的方策				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題		
学習指導	教科指導力を高めるために、個人が創意工夫を凝らすとともに、指導内容等の共有化を図ることで相乗効果を上げる	指導内容・進度等の共有化のために、予習・復習のための共通プリントの作成、定期考査問題の早めの検討をおこなう。 各回にテーマを設けた研究授業の実施。その事前事後の協議会においてテーマに沿った教科研修を深める。実力考査の教科による作成も行う。	A B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の教科指導力の向上、および生徒の家庭学習時間の増加 ・今年度行った試みを検証し、効果の期待されるものについて、全職員の共通理解のもと、粘り強く継続して実行する。 ・現状に留まることなく、方法の改善を常に模索する。 ①中学校学習からの円滑な移行（教科リエンション） ②生活の記録やシラバスの活用の徹底と研究 ③授業毎の5分間テスト、または朝テスト（課題）の設定 ④全学年、放課後10分間テスト（英単語中心）を実施 ⑤予習復習を効果的に課すための授業研究・教科研修の実施（研究授業の活性化・教科力の共有化を図る） 	
	中高の円滑な接続、基礎基本の徹底、自ら計画を立てて取り組む自発の学習態度を核とし、学年＋1時間の家庭学習時間を確保する	中学校教材の研究を行うとともに、1年生入学後1ヶ月間は中学校内容の確認や復習を取り入れる。 授業開始時の規律の確立と基礎基本の徹底のために、5教科全科目において、授業開始時の5分間テストを実施する。	A B			
	生徒指導	「挨拶・返事・後始末」があらゆる教育活動の場で実行され、爽やかで適切な言葉遣い、対応ができる生徒の育成を目指す。	学校生活すべての場面において、挨拶、返事、後始末の意識を持たせ実践できるようにする。同行連帯の精神で教職員も対応する。 校外のボランティア等を通して他人を思いやり、配慮のできる生徒の育成を目指す。			B A
		生徒自らルールを守ろうとする「自律」の精神を涵養する。部活動の活性化を図るため全職員の連携を図る。	交通マナー、交通安全の意識を高め、交通社会の一員であることを理解させる。自転車点検、安全教育を徹底し家庭との連携を図り指導する。 保護者との連携を密にし、生徒への対応を速やかに行う。部活動を奨励し、安心して活動できるよう教職員の連携を図る。			B A
進路指導	生徒一人ひとりの進路実現を全力でサポートする。	「学習の記録」を毎日付けさせ、アドバイスを基に、改善や反省を行わせ、家庭学習の時間の確保に努力させる。 小論文委員会を中心に、小論文指導を全職員で行う。日々の生活の大切さを理解させ、挨拶や言葉遣いを日頃から指導する。	B A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・後始末は人任せという雰囲気もあるので、意識改革を目指す。 ・ボランティア活動には、部活動・生徒会が率先して参加し、地道な活動ができているので継続して実施させる。 ・自転車マナーの苦情、問い合わせ、事故（接触など）報告などが年間を通じてあったので、交通社会の一員であることを指導・理解させ、マナー向上に結びつけさせる。指導法に職員間の温度差があるので、共通理解を図る。 ・部活動を安全かつ積極的に、向上心を持って実施させる。 ・学習の記録の様式を毎日継続できる物へ変える検討を行う。 ・1年次のオープンキャンパス参加を検討する。 ・就職希望の生徒への対応を再度検討する。 ・進路説明会の時期や内容を進路委員会で検討する。（土曜午後なども選択肢の一つとする。） ・進路委員会の活性化を図り、学年との連携を強化する。 ・国公立の推薦合格者数の目標数値を30名とする。 ・進路講演会の内容について、学年と連携し再度検討する。 	
	進路意識の向上と実践力の養成を目指す。	「総合的な学習の時間」やホームルーム活動を利用し、進路学習を行い、生徒の進路目標を早期に決定させる。	A			
	保健	学校における生徒、職員の安全及び環境整備にかかわる計画を企画、実施する。生徒自らが心身の健康増進を図る態度を育てる。	各種健康診断の結果に応じて、事後措置を徹底させる。健康相談等を通じて生徒が健全かつ有意義な高校生活をおくるよう指導する。3年生対象に麻疹、風疹の予防接種を奨励する。 美化委員会を活性化し、清掃計画に基づいて校内外の美化活動に取り組む。防災計画に基づいて全職員、全校生徒の学校安全意識を高める。			A B
学校評価の活用による学校経営改善と教職員のチームワークの一層の向上を図る。		課題に応じて、ミドルリーダーを中心とする小人数チームを編成して改善活動を計画、実行する。実行の評価後、さらに改善に取り組むサイクルを確立し、継続的に学校経営と指導力の質の向上に取り組む。	A			
企画広報	学校行事を通してPTAや地域との交流を深め、学校活性化につなげる。	外部への情報発信に努め、文化発表会、地域清掃ボランティア、体育大会、文化講演会などの学校行事において、PTAや地域の窓口となり、活力ある学校運営に寄与する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業および授業参観に本校教員以外の参観者を招聘し、教科指導力をより高める研修とする。「1時間一誉め」と「1分間レター」を継続すると共に、拡大学年会議の活性化を図る。 ・各行事において、PTAとの連携を図り継続して活発に活動する。情報発信では、文書による発信が中心であり、HPの活用が課題である。東高ニュースは継続してゆく。
図書	図書館の資料、視聴覚機器等の充実を図り、情報リテラシーを推進する中で、生徒の主體的・意欲的な学習活動や読書活動を支援する。	読書の時間の設定、校内一斉放送による朗読、図書委員会主催の朗読会や読書会の実施、公募の読書感想文の応募などによって、継続的な読書活動の支援を行う。 環境整備、広報活動の充実を図る。また新聞スクラップの活用、レファレンスサービスの充実によって小論文対策や調べ学習に役立つ資料提供を行い、学習活動の支援を行う。	A B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科との連携を図り、読書活動、学習活動の支援を積極的に行う。館内の棚の整理、ディスプレイを工夫し、入りやすく利用しやすい図書館づくりを継続する。利用者、各教科の要望を反映した選書を行い、資料の精選に努める。
	人権教育	全教科全領域での人権尊重の精神を養い、自他の人権を守る実践力を育成する。	「教科指導を通じた人権教育」を推進するとともに、特設授業の内容をより充実させる。 生徒の就学・修学支援、進路保障を積極的に行い、希望する進路の実現に努める。 職員の人権意識向上のために、校外研修に積極的に参加するとともに、校内研修を充実させる。	B A B	B	B